

3 展 示

(1) 常設展示

『未来へつなぐ熊本の記憶 一集める・伝える・創造する一』をテーマとし、1階は熊本の歴史や文化について、2階では人と自然の関わりを中心に紹介している。

展示資料とともに、キオスク端末による映像資料や解説等も行っている。また、音声ガイドによる外国語ガイド(英語・韓国語・中国語)も導入している。

波奈之丸展示室

重要文化財「細川家舟屋形」(藩主細川氏が使用した御座船「波奈之丸」の船屋形部分)を展示している。大藩で用いられた海御座船の舟屋形としては、国内で唯一現存するものである。

才園古墳展示室

重要文化財「肥後国球磨郡免田才園古墳出土品」を展示している。鍔金獣帯鏡や豪華な金銅製馬具類、装身具類、鉄刀などがある。鍔金獣帯鏡は普通の鏡より上位に格付けされ、九州南部の内陸交通の要衝であった人吉盆地の有力者に、近畿中央政権から贈与されたと考えられている。

1階 人文系展示

「熊本の歴史と文化の由来をさぐる」

旧石器時代から中世、そして現在の市街地の基礎が形成された近世を経て、近代の都市・軍都へと変貌した熊本の歴史について紹介している。

2階 自然系展示

「熊本の自然にひそむ魅力と不思議に気づく」

地質分野では、熊本で見つかった化石、岩石、鉱物等の展示により大地の生い立ちを解説している。

生物分野では、熊本市内の身近な自然として、江津湖と金峰山の生態等について紹介している。

縣市連携展示室

熊本県博物館ネットワークセンター所蔵の自然系資料を展示している。



考古展示室



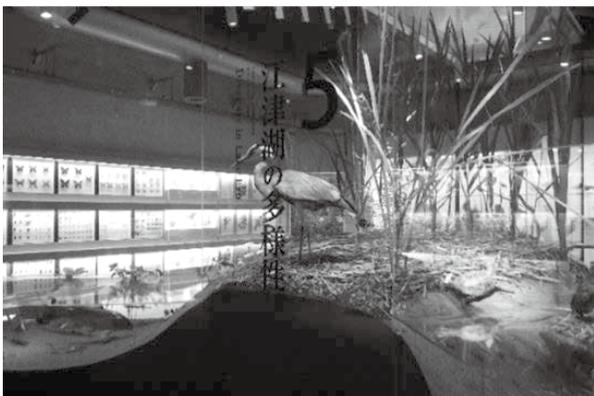
歴史展示室



民俗展示室



地質展示室



生物展示室

(2) 常設展示入替

ア 考古分野

期 間 7月14日(火)～
 内 容 熊本城飯田丸出土西南戦争遺物の展示
 場 所 融合展示場1階部分

期 間 1月5日(火)～
 内 容 稲荷山古墳出土馬具の展示
 場 所 「古墳がつくられた時代」

イ 民俗分野

【七夕展示】

期 間 6月7日(日)～8月7日(金)
 内 容 笹飾り
 場 所 「昭和の家」

【重陽展示】

期 間 8月9日(日)～9月9日(水)
 内 容 菊の着せ綿
 場 所 「昭和の家」



菊の着せ綿

【郷土玩具とお土産展示】

期 間 9月15日(火)～3月31日(水)
 内 容 郷土玩具と熊本のお土産品
 場 所 収蔵展示室

【音声展示】

期 間 9月15日(火)～3月31日(水)
 内 容 西南戦争解説(パノラマ館)
 SLの蒸気音及び汽笛(駅)
 スズメの模型と鳴声(昭和の家)

※内容部分の()内は場所を示す

【戦争関連新蔵展示】

期 間 10月2日(金)～3月31日(水)
内 容 焼夷弾、伝単、遺書、満州引揚資料等
場 所 「第一次・第二次世界大戦と熊本」



新蔵品の展示の様子

【新年・丑年記念展示「民俗収蔵庫の牛たち」】

期 間 12月20日(日)～3月31日(水)
内 容 牛の郷土玩具、酪農関連道具
場 所 収蔵展示室

【和傘関連資料展示】

期 間 1月6日(水)～3月31日(水)
内 容 和傘、メダル
場 所 「富国強兵と庶民の暮らし」

内 容 人吉・球磨地域のやきもの4点(一勝地焼、上村焼ほか)

場 所 「成熟する肥後」

期 間 11月17日(火)～

内 容 小代焼4点

場 所 「成熟する肥後」

【刀剣】

期 間 9月15日(火)～12月20日(日)

内 容 1振(大身槍(銘:肥後同田貫…))

場 所 「肥後の武士たち」

期 間 12月22日(火)～2月7日(日)

内 容 2振(短刀(銘:備州長船祐定/天正五年二月日)、袋槍(銘:延寿宣勝))

場 所 「肥後の武士たち」

期 間 2月9日(火)～3月28日(日)

内 容 3振(刀(銘:肥後同田貫兵部/慶長三年八月日)、脇差(銘:肥後同田貫宗廣安政五年正月日)、薙刀(銘:肥後同田貫又八/五十ノ内三六))

場 所 「肥後の武士たち」

ウ 美術工芸分野

【絵画】

期 間 5月21日(木)～12月27日(日)
内 容 《鍾馗図》2幅(矢野良勝筆、角田二花山筆)
場 所 「成熟する肥後」

期 間 1月5日(火)～
内 容 《熊本城真景図》(レプリカ)1幅
場 所 「成熟する肥後」

【陶磁器】

期 間 7月8日(水)～11月15日(日)

(3) 期間展示

ア 藤崎宮例大祭展示

期 間 9月1日(火)～9月22日(火)
内 容 藤崎宮例大祭の映像とパネルを展示
場 所 2階 多目的スペース



展示の様子

イ 干支(丑年)関連展示

【動物】

期 間 1月5日(火)～3月31日(水)
内 容 牛の前肢骨格標本
場 所 常設展示室 ふしぎ発見のとびら

【植物】

期 間 1月5日(火)～1月31日(日)
内 容 さく葉標本(ウシハコベ、ミゾソバ)
場 所 常設展示室 ふしぎ発見のとびら

【地質】

期 間 1月5日(火)～2月10日(水)
内 容 福岡県福吉の紅柱石標本
場 所 常設展示室 ふしぎ発見のとびら

ウ プラネタリウム特別投映関連展示

【動物】

期 間 2月9日(火)～2月28日(日)
内 容 シカの頭骨・下顎骨格標本
場 所 常設展示室 ふしぎ発見のとびら

【地質】

期 間 2月11日(木・祝)～2月28日(日)
内 容 海緑石・磁性鉱物
場 所 常設展示室 ふしぎ発見のとびら
ジオジオスタディールーム

(4) 展示会

ア パネル巡回展

「潜水調査船がみた深海生物」

期 間 5月21日(木)～6月21日(日)

場 所 特別展示室3

主 催 熊本博物館

企画・制作 海洋研究開発機構(JAMSTEC)

協 力 全国科学館連携協議会

内 容 有人潜水調査船「しんかい6500」や無人探査機「ハイパードルフィン」などのカメラがとらえた、神秘的な深海生物の写真を展示。



展示室の様子

イ 企画展

(ア)「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・宮本常一
—熊本で見つけたモノ— (特別編)

期 間 7月23日(木・祝)～8月30日(日)

場 所 特別展示室2

内 容 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2019年度会期中に中止した展示会をダイジェストとしてまとめた企画展。民俗学者・宮本常一の半生と熊本での足跡を写真や著書等で紹介した。



展示室の様子

(イ) ひらいて、見よう！いろいろな巻物

期 間 7月23日(木・祝)～8月30日(日)

場 所 特別展示室1

内 容 資料の大きさのため、通常はごく一部しか展示できない巻物資料を大きく開いて展示。大画面ならではの迫力を味わっていただく企画展とした。

(ウ) くまはくおうちミュージアムのあゆみ

期 間 7月23日(木・祝)～8月30日(日)

場 所 特別展示室3

内 容 新型コロナウイルス流行による外出自粛期に開始した当館のwebコンテンツ発信の取組を紹介し、関連する対象物(魚の耳石や工作物など)を展示した。

来館者 6,653名



展示室の様子

(エ) 宇宙の地平線の向こうに

～HORIZON を越えて

期 間 7月23日(木・祝)～8月30日(日)

場 所 特別展示室3

内 容 月刊星ナビにて連載された、天文学者・小松英一郎氏によるプラネタリウム番組「HORIZON」の解説記事「宇宙の地平線の向こうに～HORIZONを越えて」をパネルにて展示した。



ミュージアムトークの様子

(オ) ひとのすがた、いのりのかたち

—肖像彫刻の世界—

期 間 12月5日(土)～1月24日(日)

場 所 特別展示室1・2

内 容 重要文化財《木造東陵永瑠禅師倚像》(雲巖禅寺所蔵)の修復を記念し、熊本県内外のさまざまな肖像彫刻を展示。

関連行事

① 講演会「仏像の文化財修理について」

日 時 12月19日(土)

13時30分～14時30分

場 所 プラネタリウム室

講 師 陰山 修 氏

(公益財団法人 美術院 国宝修理所 所長)

※詳細はP121～131 参照

② ミュージアムトーク

日 時 12月5日(土)

14時～、18時～

場 所 特別展示室1・2

(カ) 博物館でひな祭り！！

期 間 2月6日(土)～3月7日(日)

場 所 特別展示室1・2

内 容 熊本ならではのひな人形(おきあげ人形)や「天草土人形」をはじめ、「享保びな」そして、ひな人形のルーツである「這子人形」などを展示した。また、全国で見られる変わりひな人形、「裸びな」や「豆びな」なども展示した。



展示室の様子



展示室の様子

(キ) 震災をふりかえる

—大地とモノが語る熊本地震—

期 間 3月20日(土)～5月30日(日)

場 所 特別展示室1・2・3、
2階 多目的スペース

内 容 平成28年熊本地震発生から5年が経過する時期にあわせ、熊本地震発生後の当館の取組や地震の痕跡が残る資料を紹介し、今後の防災や文化財保存について考える展示とした。

【第1部(特別展示室1)】

被災した民間所有の未指定文化財



【第2部(特別展示室2)】

熊本地震の発生と熊本博物館



【第3部(特別展示室3)】

大地が語る地震の記憶



来館者(令和2年度分のみ) 2,021名

関連行事(本年度分のみ)

「Dr. ナダレンジャーの防災サイエンスショー」

日 時 3月28日(日)

① 10時～10時30分

② 14時～14時30分

場 所 プラネタリウム室

講 師 納口恭明氏(Dr. ナダレンジャー)

罇 優子氏(ナダレンコ)

(防災科学技術研究所)

参加者 105名(①25名、②80名)



ウ 共催展

(ア) がまだすドーム巡回展 1991『雲仙普賢岳
噴火災害』を振り返る IN 熊本博物館

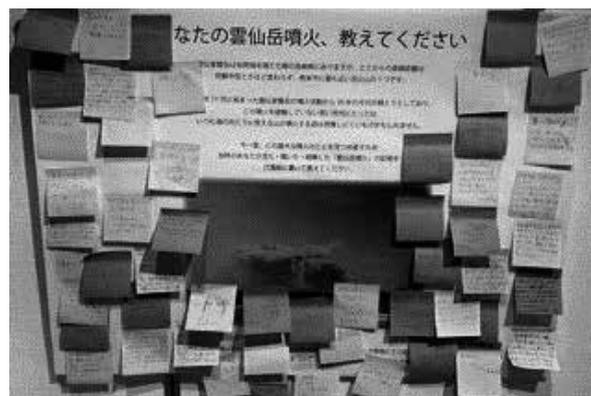
期 間 9月9日(水)～10月11日(日)

場 所 特別展示室3

主 催 雲仙岳災害記念館
熊本博物館

内 容 雲仙岳災害記念館製作の巡回展。雲仙普賢岳噴火災害の状況、噴火活動、支援活動の過程を、実際に被災した資料や映像とともに紹介した。当時を語る噴火や災害の写真を通して、火山の脅威や災害への心がまえ、市民をはじめとするボランティア活動、そして復興を果たしていった様子を振り返り、今後の防災を考える展示とした。

来館者 5,098名



寄せられた体験談や展示の感想



会場の様子



火砕流により被災した学校の机

(イ) くまもと市 2020 遺跡発掘速報展

期 間 12月12日(土)～2月7日(日)

場 所 特別展示室3

主 催 熊本市文化財課
熊本博物館

内 容 熊本市内の近年の発掘調査の成果の展示を行った。縄文時代～鎌倉時代の遺跡から出土した貴重な遺物を公開した。また、熊本博物館所蔵資料のうち、再整理を進めている立田山古墳群の出土品を中心に、その意義も含めて展示。

来館者 3,336人

関連行事

「展示解説」

日 時 12月20日(日) 10時～12時

場 所 特別展示室3

関連行事

「#あなたの普賢岳噴火」

会期中、会場の付箋紙ボードやTwitterのハッシュタグ機能を利用して、噴火当時の災害体験談を募った。